



# 虫刺され(虫刺症)について

～かゆみ・腫れ・痛みを起こす皮膚トラブル～

暖かい季節になると、「虫に刺された」「赤く腫れてかゆい」といった症状で受診される方が増えてきます。虫刺されは一見軽症に見えても、強い炎症や細菌感染を起こす場合もあり、注意が必要です。



## 虫刺症とは？

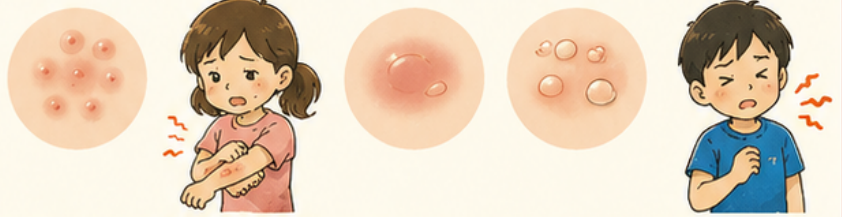
蚊・ダニ・ブヨ・ノミ・ハチなどの虫によって皮膚に炎症が起こる状態です。

虫に刺された際、虫の毒成分・唾液成分・針や口器による刺激などに対して体が反応し、赤み・腫れ・かゆみ・痛みが生じます。



## よくみられる症状

赤いぶつぶつ 強いかゆみ 腫れ・熱感 水ぶくれ 痛み



特にお子様は反応が強く出やすく、大きく腫れることがあります。掻き壊してしまうことで、とびひ(伝染性膿痂疹)・細菌感染・色素沈着につながることもあります。

## 原因となる主な虫

### 蚊



最も一般的な虫刺されです。小さな赤みとかゆみを生じます。

### ダニ



寝具や草むらなどで刺されることがあります。数日後に強いかゆみが出る場合もあります。

### ブヨ(ブユ)



刺された直後より、翌日以降に強く腫れることが特徴です。痛みや熱感を伴うこともあります。

### ノミ



足首周囲を中心に、小さい発疹が多発します。

### ハチ



強い痛みや腫れを起こします。まれにアナフィラキシーという重篤なアレルギー反応を起こすことがあります。

## 治療について

症状に応じて治療を行います。



### ステロイド外用薬

炎症やかゆみを抑えます。



### 抗ヒスタミン薬(飲み薬)

虫刺されでは、虫の唾液や毒成分などの“異物”に対して、体がアレルギー反応を起こすことで、かゆみや腫れが生じます。そのため、当院ではかゆみが強い場合や腫れが目立つ場合には、抗ヒスタミン薬の内服を積極的に行っております。かゆみを抑えることで掻き壊しを防止、とびひ(伝染性膿痂疹)・湿疹化・色素沈着などの悪化予防にもつながります。



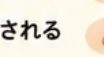
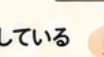
### 抗菌薬

掻き壊しによる細菌感染を伴う場合に使用します。

症状が強い場合や腫れが高度な場合には、より強い治療が必要となることもあります。

## こんな場合は皮膚科受診をおすすめします

- 腫れが強い
- 水ぶくれになっている
- 痛みが強い
- 発熱を伴う
- 何日も改善しない
- 掻き壊してジュクジュクしている
- 同じ場所を繰り返し刺される
- 虫かどうか分からない



特に小さなお子様は症状が悪化しやすいため注意が必要です。



## 虫刺され予防のポイント

虫よけ剤を使用する



長袖・長ズボンを着用する



草むらを選避ける



寝具を清潔に保つ



ペットのノミ対策を行う



## 最後に

虫刺されは身近な皮膚トラブルですが、強い炎症や感染を起こすこともあります。「ただの虫刺されかな？」と思っても、症状が強い場合は早めの受診をおすすめいたします。気になる症状がございましたら、お気軽にご相談ください。

